

日本電産株式会社 (2019 年グリーンボンド)

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2020 年 11 月 25 日

担当者：

Wakako Mizuta, wakako.mizuta@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

はじめに

2019 年 11 月、日本電産株式会社（以下、「日本電産」）は 電気自動車（EV）向けトラクションモータ製造に関連する設備投資及び研究開発費へのファイナンス又はリファイナンスを目的とする 3 つのグリーンボンド（3 年債 500 億円、5 年債 300 億円、7 年債 200 億円）を発行しました（以下、「グリーンボンド」）。2020 年 11 月、日本電産はサステナリティクスに対して、グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトを審査し、これらのプロジェクトが日本電産株式会社グリーンボンドフレームワーク（以下、「グリーンボンドフレームワーク」）¹ で規定された資金使途やレポートのクライテリアを満たしているかの評価を委託しました。

評価基準

サステナリティクスは、以下の要件について、2020 年 6 月 30 日時点で調達資金の充当を受けたプロジェクトを評価しました。

1. グリーンボンドフレームワークで規定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. グリーンボンドフレームワークで規定された各資金使途クライテリアに対する少なくとも一つの主要業績評価指標（KPI）に関する報告

表 1 に調達資金の使途、適格クライテリア及び関連する KPI を示します。

表 1：調達資金の使途、適格クライテリア及び KPI

調達資金の使途	適格クライテリア	KPI
クリーンな輸送	電気自動車向けトラクションモータの製造に関連する設備投資及び研究開発費	日本電産は、グリーンボンド償還までの間、同社ウェブサイトにて以下の指標を年次で開示する予定です。 <ul style="list-style-type: none">• 製造したトラクションモータの年間出荷台数• トラクションモータ導入による CO₂ 削減量（ガソリンエンジンと比較）

発行体の責任

日本電産は、プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

¹ 日本電産株式会社グリーンボンドフレームワークの概要: <https://www.sustainalytics.com/sustainable-finance/wp-content/uploads/2019/11/Nidec-Corporation-Green-Bond-Second-Party-Opinion-08112019-JAPANESE.pdf>

独立性と品質管理

投資家に環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、日本電産のグリーンボンドによる調達資金の用途を検証しました。本委託業務の一環として、同社のグリーンボンドフレームワークとの適合性の確認のため、日本電産の従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスの調査は、対象プロジェクトに関して、日本電産から提示された情報と事実に基づいて行われています。日本電産が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果²、すべての重要な側面において、日本電産のグリーンボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、グリーンボンドフレームワークで規定された調達資金の用途及びレポーティングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。

調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

適格クライテリア	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金用途クライテリア	2020年6月30日時点でグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、グリーンボンドフレームワーク及び上の表1に示されている資金用途クライテリアとの適合性を検証。	審査したすべてのプロジェクトは資金用途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポーティングクライテリア	2020年6月30日時点でグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがグリーンボンドフレームワーク及び上の表1に示されている KPI と適合する形で報告されたかを検証。報告された KPI の一覧は参考資料 2 を参照。	審査したすべてのプロジェクトは調達資金の用途のクライテリア毎に KPI を報告していました。	該当なし

² サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

参考資料 1：審査対象のプロジェクトカテゴリー一覧

調達資金の用途の カテゴリー	概要	リファイナンスプロジェクトの ルックバック期間
クリーンな 輸送	全ての資金充当が電気自動車向けトラクションモータの製造に関連する設備投資及び研究開発費向けであることを確認	リファイナンスについては、グリーンボンド発行より遡って 24 ヶ月以内に実施されたプロジェクトに限定されていることを確認。

参考資料 2：プロジェクトのインパクト一覧³

調達資金の用途の カテゴリー	製造したトラクションモータシステムの 年間出荷台数 (台) ⁴	トラクションモータシステム導入による CO2 排出削減量 (t-CO ₂ /年) ⁵
クリーンな 輸送	2019 年度： 48,700 2020 年度： 11,119	26,827

³ フレームワークはインパクト指標として、同社によるトラクションモータの年間出荷台数とそれによる CO₂ 削減量の開示を定めており、表内のインパクトレポートは 3 つのグリーンボンドそれぞれのインパクトを示しています。

⁴ 2019 年度は 2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日、2020 年度は 2020 年 4 月 1 日～2020 年 6 月 30 日。

⁵ 電気自動車が走行する場合に想定される CO₂ 排出量と、ガソリン車が走行する場合に想定される CO₂ 排出量とを比較し、その差を CO₂ 排出削減量として算定。

免責事項

© Sustainalytics 2020 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステイナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステイナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時点のサステイナリティクスの意見を反映しています。サステイナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

英語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先されるものとします。

サステイナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステイナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。ESG 及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、多国籍企業や金融機関、各国政府を含む世界の主要な発行体に、グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンドのフレームワークに対する信頼性の高いセカンドパーティ・オピニオンを提供しています。2020 年には、Climate Bonds Initiative により、3 年連続で「気候ボンドのレビューにおける最大の認証機関」に選ばれたほか、Environmental Finance 誌により、2 年連続で「最大の外部レビュー機関」に認定されました。詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照ください。

5th Green Bond Pioneer Awards

Climate Bonds Initiative

Largest Verifier for Certified
Climate Bonds of 2019

awarded to Sustainalytics



More information conference.climatebonds.net/awards



GlobalCapital SRI Awards

Named

2015: Best SRI or Green Bond Research or Rating Firm
2017, 2018, 2019: Most Impressive Second Opinion Provider



The
Green Bond
Principles